

コンベンション報告

2025年度コンベンション報告 1

ウズベキスタン海外コンベンション実施報告

窪田 光洋 岡村 広美

今回日本ビジネスモデル学会海外コンベンションの運営を担当した日本ビジネスモデル学会代表幹事を務めている iYell 株式会社代表取締役社長兼 CEO 窪田光洋および同社岡村広美による運営側の角度にて、実施報告を致す。

【はじめに】

本学会では、数年に一度のペースで海外コンベンションを実施している。過去には、エストニア、中国深圳、ヒューストンなどを訪問し、各国や地域が持つ産業、制度、文化を実地で観察し、各国のビジネスモデルについて議論する機会を設けてきた。

海外コンベンションにおいては、国際的に注目される国や、本学会の研究・実務の文脈で接点を持ってきた国を訪れ、現地の制度、法律、産業構造、人の動きに直接触れることを重視している。

また、海外コンベンションの結果として抽象的な理解に留まらず、「それが実際に形にするとしたらどうなるのか」と常に日本企業との協業計画等具体化する姿勢を持ちながら対話を掘り下げていくことを重視しているその積み重ねが、本学会の海外コンベンションをより有意義なものにしている。

今回のウズベキスタン訪問は、急速な経済改革が進む同国と、日本の「コンテンツビジネス」の交点の一つの切り口として、新たな可能性を探求するものとして実施された。

前段の通り本海外コンベンションでも「具体化」の成果は表れた。例えば、文科省映画製作庁との対話では、

日本人が建設に大きく関わったウズベキスタンを代表する国立オペラ・バレエ劇場であるナヴォイ劇場に触れながら、「もしそうしたアニメ映画を題材にしたら、どのような世界展開が良いのか」といった、具体的なイメージを伴う問いが交わされた。言葉を重ねるごとに、各参加者の頭の中に場面が立ち上がり、対話は次第に深まっていった。

また印象的だったのは、その想像がその場限りで終わらなかった点である。現地で生まれた対話はその後を繋ぐきっかけとなり、海外コンベンション終了後4か月経過した現在も参加メンバーと、現地のプロジェクトメンバー間で、対面での交流も含め、動きは継続されている。

このような、「具体化」こそがビジネスモデル学会の海外コンベンションの価値であると感じている。

【本題】

改めて、運営側としては、現地事情に精通する一般財団法人 国際情報化協力センター (CICC) の岡田氏の全面的協力のもと、参加者の新たな視点や対話が生まれる場となるよう、構成や動線を検討した。

最初の2日間は、世界遺産や偉人に触れる機会、そして実際の暮らしを感じ取れる機会を設けながら、ウズベキスタンの文化的背景を理解する時間となった。

そして後半は、政府機関、教育機関、関連施設の訪問を軸に構成し、単発の見学に終わらず、連続性のある理解が得られるような設計となった。

加えて、移動や非公式な場での対話も含め、参加者同士が自由に意見を交わす時間を確保したことは、今回の



コンベンション報告

重要な時間となった。参加者との協働によって場が形づくられていった点は、運営として強く印象に残ったものだった。

日本ビジネスモデル学会は、アカデミアとビジネスの知見が交差する場であり、多様な専門性を持つ会員が集うことに特徴がある。多様なバックグラウンドを持つメンバーが、それぞれの視点から常に気付きや問いを投げかけ、議論を重ねることで、当初想定していなかった視点が移動中においても次々と生まれていった。

今回の海外コンベンションを通じて得られた知見は、今後のあり方や、学会としての国際的な取り組みを考える上で多くの示唆を与えてくれた。今後も、本学会ならではの視点を活かし、学びと実践を往復する場を丁寧に設計していきたい。

最後に、本海外コンベンションの実現にあたり、多大なるご協力をいただいた現地訪問先の皆様をはじめ、CICC 岡田氏、通訳の Ulugbek 氏、本学会元会長平野先生、今回の視察のきっかけを作ってくださった露木先生、そして共に議論を深めてくださった参加者の皆様に、心より感謝申し上げます。

窪田 光洋

日本ビジネスモデル学会代表幹事

2007年にSBIホールディングスに入社し、SBIモーゲージ（現SBIアルヒ）に配属。当時、最年少で執行役員に就任。2016年にiYell株式会社を設立。住宅ローン業務支援システム「いえーる ダンドリ」を始めとしたサービスを幅広く展開。累計98.5億円の資金調達、従業員290名（グループ会社含む）、グループ8社を展開し、アナログな業界の変革を目指し、デジタル化を推進中。

岡村 広美

日本ビジネスモデル学会事務局

2021年にiYell株式会社へ入社。住宅ローンの借り換え分野における顧客対応後、YouTubeチャンネル「ゆっくり不動産」のマネジメントを担当。

コンベンション報告

9/5(金)	(移動) ウズベキスタン到着
9/6(土)	タシケント → サマルカンド (特急列車) IT Park (サマルカンド) サマルカンド市内観光：世界遺産 シャーヒ・ズィンダ廟群 レギスタン広場 サマルカンド→タシケント (特急列車)
9/7(日)	ハズラティ・イマーム広場 チョルスー・バザール ティムール博物館 アミール・ティムール広場 タシケント地下鉄駅 (複数駅) タシケント・シティ・ショッピングモール ウェルカムディナー
9/8(月)	International Business Center JETROタシケント事務所 (一瀬所長) Uzbekistan Japan Center (UJC) IT Investment Center (ITIC) Uzクリエイティブ協会 会長 面談
9/9(火)	日本人墓地 日本人抑留者資料館 IT Park (タシケント) 桜井デジタル技術省大臣顧問 デジタル技術省 Jamol Makshdov 副大臣 Inha University in Tashkent アリシエル・ナヴォイ劇場 マジックシティ・パーク
9/10(水)	文科省映画製作庁 Cinematography Agency under the Ministry of Culture Kodirov国際局長 Japan Digital University デジタル技術省法務部門 フェアウェルディナー
9/11(木)	(移動) 日本到着

表 1 日程表